

令和7年度 第1回豊中市生活支援サービス部会

令和7年(2025年)6月25日(水)

午後3時30分～午後5時

くらしかん 体験学習室 及び Zoom

《出席状況》豊中市生活支援サービス部会委員総数5名中4名出席)

豊中市生活支援サービス部会
◎小野委員、○大野委員（Zoom参加）、松永委員、當内委員

(◎=部会長 ○=副部会長 委員名簿順)

事務局
福祉部 長寿社会政策課：坂口福祉部次長、松宮課長補佐、高木係長、宮脇主査 東山主査、中根 長寿安心課：野田主幹、室田係長  豊中市社会福祉協議会 勝部事務局長、出（いで）課長

《一般傍聴者》 1名

《議題》

- (1) 令和6年度生活支援コーディネーター活動報告(実績と評価)について
- (2) 令和7年度生活支援コーディネーター活動計画(進捗状況)について
- (3) 生活支援体制整備事業の今後について
- (4) その他

## ●事務局

部会員出席状況報告

部会員5名のうち4名出席で、要綱に定める部会の過半数を超えていることから、本部会の成立を報告

## ■議題1 令和6年度生活支援コーディネーター活動報告(実績と評価)について

### ●事務局より報告

【資料1】令和6年度 豊中市生活支援コーディネーター活動報告

【別紙1】単年度生活支援コーディネーター活動計画に沿った取組みの実績等

【添付①】生活支援コーディネーターニュース等

【添付②】豊中市社協みんなの福祉143号ホームページニュース

事務局より報告後

### ●部会長

報告内容としては、様々な活動におけるコロナ禍の影響について、令和6年度は活動状況がかなり回復したことや、地域のスーパーが閉店して高齢者が買い物に困るといった新たな地域課題への対応もなされた報告があった。

報告の中で、健康マージャンが大盛況であるという報告があった。マージャンなので、男性に人気があると思いきや、参加者の2/3が女性であったという報告が印象的であった。

### ●委員

介護予防お助けバンクについて、登録者はどのような特技を持っているか。

### ●事務局

気功、太極拳、ロコモの予防体操、アロマ、健康体操、コグニサイズ、能力アップ教室、ヨガ、水泳、フラダンス、ピアノ、フルート、歌唱指導、折り紙、紐編み、和裁等、様々な特技を持つ方々が、地域サロンでワンポイント指導者として活躍している。

現在の65歳以下の方は、男女雇用機会均等法世代で、働いてきた女性も多く、たくさん習事として、地域に貢献したいと考えている方が多いと考える。今後はこの世代の女性にも活躍してもらいたいと考えている。そのような方々をサロン等での参加者側としてではなく、指導者側として力を発揮できるように、お助けバンクに登録し、需要と供給のマッチングを進めていきたいと考える。

### ●委員

地域へ貢献したいという方は、まだ働けるという意識がありながら退職された方もいると

思う。無償ボランティアでなく、賃金的とまではいかなくとも、有償ボランティアとして活動してもらうのはどうか。

#### ●事務局

活動毎に交通費ぐらいの謝礼は発生しており、それを理解していただいた上で活動してもらっている。

#### ●委員

- ・介護お助けバンク登録年齢制限について。
- ・健康マージャン以外の囲碁、将棋等の活動は民間が頑張っているから事業がないということか。
- ・あぐりの女性参加は今後可能か。

#### ●事務局

##### ▶介護お助けバンク登録年齢制限について。

介護予防の観点から、高齢者が高齢者を支える形で実施しているので、登録は年齢の高い方をお願いしている。もし若い世代で登録を希望したら、別途ボランティア登録等してもらい協力いただく。福祉便利屋の担い手となる、安心サポーターの登録者は高齢者が多いが、大型ゴミの搬出等、高齢者同士ばかりでは体力的に厳しい依頼もあるので、引きこもりの青年等の若年層にも協力してもらっている。

##### ▶健康マージャン以外

全てを社協でできないので、民間等で既に活動されているのであれば任せたいと思っている。健康マージャンは、もともと賭けマージャンのイメージが強く人も集まりにくいと考えられていたが、今や全国大会もあり、裾野が広がっているように思う。

##### ▶あぐりの女性参加は今後可能か。

男性同士だからこそできる話の場、弱音のはける場、妻を亡くして同じ境遇だからつながる場となっている現状から、今は難しい。毎年、女性参加については、議題に上がるが、今後女性参加を進めるなら少しやり方を変える必要があると考える。

#### ●委員

生活支援サービスがスタートして7、8年くらいになるかと思うが、サポートを提供される側と提供する側それぞれの特徴の変化などあれば教えていただきたい。

### ●事務局

小学校区の住民主体の取組みを進めている中で、自治会の組織率がかなり低下しており、情報発信を自治会だけに頼ると人が集まりにくい。情報発信は、市全体で行っていくことで効果が上がることが多いと感じる。

担い手を養成するのも、地域の中だけで任せるのではなく、市社協や圏域で養成して地域に戻していく方がよいと感じる。

余談だが、こども食堂等小学校区で活動しているものも、市社協で養成した担い手をメンバーに入ると地域活動が活性化する。切り口が福祉ではないマージャンやコーラス等でも、そこから人がつながり、福祉について少しずつ学び地域へつながるのも一つのやり方と考える。

### ●委員

こども食堂がすごく増えている印象がある。貧困層は増加しているのか。

### ●事務局

困窮世代はたくさんいるが、今増えているのはつながりを増やす趣旨のコミュニティ食堂。困窮している子どもだけを集めるというより、子どものことを考える大人が集まる場、あるいは、高齢者と子どもと一緒に集まる場といったもので、一口にコミュニティ食堂と言っても中身はいろいろなカテゴリーがある。

### ●部会長

高齢者が高齢者を支えるだけでなく、そこにいろいろな世代の人が関わることにより、世代間の交流ができる。男女雇用機会均等世代の人たちが退職後地域で活躍するような段階になったときに、事業や担い手も変わってくる可能性もある。今回の報告の中で新しい地域活動のアイデアにつながりそうなものを感じた。

## ■議題2 令和7年度生活支援コーディネーター活動計画（進捗状況）について

### ●事務局より報告

【資料2】生活支援コーディネーター実施内容（令和7年度進捗）

事務局より報告後

### ●部会長

報告内容としては令和7年度の第1層、第2層、第3層の取組みの進捗報告であった。

## ●部会長

- ・歌声ひろばと健康コーラスの違い。
- ・各層での取り組み方、上層から下層へのおろし方等について。

## ●事務局

### ▶歌声ひろばと健康コーラスの違い。

歌声ひろばは、自分が前に出て一緒に歌うといったパターン。比較的元気な方から、介護度がある元歌手といった方で、舞台に立てなくなっても居場所を好む人等が集まる。

健康コーラスは、ハーモニーが好きな人。歌い方や発生から練習したり男性女性パートにわかれて練習したりするので、そういったことを好む方が集まる。

### ▶活動の層レベルでの取り組み方について。

基本は一層でチャレンジングなことを行い、うまくいきそうなら二層へ広げ、三層で事業展開できれば、住民の身近なところでの活動ということで事業が活発化すると考える。地域だけでは、新たな資源開発は難しいので、一層での成功事例をもとに下層へ提案する。

## ●部会長

先ほどのこども食堂のボランティア養成の話と共通するところがあり、ボランティアも市レベルで一度養成し、のちに地域で活動してもらい、事業も市全域で試してみて、感触を確かめて、地域で受け入れられそうなら地域へとおろしていく、そのような手法が生まれているのだと思い非常に興味深かった。

## ●委員

健康マージャンについて、介護保険を用いたデイサービスメニューでもマージャンがあるが、健康マージャンが二層、三層でも広がったなら、デイサービスではなく、ヘルパーと一緒に地域活動である健康マージャンへ出向いてもらう方が自立支援の観点からもよいのではと感じた。

## ●事務局

健康マージャンの場合は、元気な高齢者の方が、会話することにより、つながりができる場として意味があると思う。デイサービスでマージャンに行く方は、もしかしたらマージャンをきっかけに、入浴等なかなか受け入れてもらえなかった介護サービスの利用が進むかもしれない。活動内容であるマージャンということで同系列と考えるのは難しいかもしれない。

健康マージャンも歌声広場も、そこでできたつながりで、仲間に会うためもっと元気になるとか、服装もきれいになるとか、要介護の方でもともと歩けなかったが、手押し車で参加するようになった等の事例があるので、介護予防には大事なことと考える。

### ■議題3 生活支援体制整備事業の今後について

#### ●事務局より報告

【資料3】 生活支援体制整備事業の今後について

【追加資料1】 豊中市の協議体（地域ささえあい推進協議体）

事務局より説明後

#### ●部会長

本議題は第10期計画を念頭に置き、そこに向けてどのような方針で事業展開するかという幅広い論点が出る議題。部会員より多く意見をいただきたい。

#### ●委員

住民参画・官民連携推進事業の創設と就労的活動支援コーディネーター配置事業について詳細を知りたい。まず住民参画・官民連携推進事業における民間事業者とは。

#### ●事務局

現在、生活支援体制整備事業の大半を社会福祉協議会に担ってもらっているが、社会福祉協議会以外の、医療介護関係者の専門職の団体やその他民間団体等とも協働し、広く多様な主体が参加し地域課題の洗い出しを図りたいと考える。

#### ●委員

介護事業者連絡会でも地域に溶け込む事業所を作りたいと活動している。専門的職員を前面に出すより、気軽な感じで介護事業者と関りを持ってもらえるように取り組んでいきたいと思っている。あわせて、専門職（ヘルパー、医療系の看護師、理学療法士等）が、人的資源として協力できる場所があればと思い、聞かせていただいた。

#### ●事務局

住民参画・官民連携推進事業について類似する活動は始まっているところもある。例えば、マルシェ開催場所として地域の美容室の休日に店舗前のスペースを借りたり、過去には介護保険事業所スペースも借りてあぐりの出張も行った。移動販売車もイオン、生協、ファミリーマート、阪急百貨店から借り、施設の駐車場も使わせてもらったこともあった。就労的活動支援コーディネーター配置事業についても、就労人口が不足している中、元気な高齢者の社会活動の促進が重要とされている中、お助けバンクに登録されているような方が、就労として現場で活躍できるのであれば促進しようとする事業と思われる。現在も活動している内容が事業としてしっかりとした体制の中で進めていくということをして市として提案している認識である。

●委員

就労的活動支援コーディネーター配置事業はシルバー人材センターよりも少し活動がしづらい方たちを対象とするイメージか。

●事務局

現在シルバー人材における活動内容は恐らく生活課題。そうではなく、地域課題の解決がそのまま事業として成立し、その課題解決に適した人材をマッチングし、就労につなげることを目指すのが就労的活動支援コーディネーター配置事業であり、生活支援体制整備事業の一環といえると思う。

●委員

試行実施した調査票について、これは今年度全体的に広がるのか。また、便利屋事業で担い手サイドの年齢層区分けが60歳未満/以上となっているが、担い手に若年層も一部活躍している話もあったので、若年層の登録も感じさせる区分けとなればと思った。

●事務局

今後項目内容含め定期的に全体的に調査できるように社会福祉協議会と調整する予定。

●事務局

社会福祉協議会としては、せっかく行う調査なので、きちんとエビデンスになるような元気になる指標を市と共に作りたいと考えている。

●委員

ぐんぐん元気塾は65歳からしか利用できないのか、また地域である様々な活動は自分の住んでいる校区でしか受けることができないのか。

●事務局

基本的には65歳以上。地域活動も見守り体制づくりの一環という側面があるので、絶対ダメとは言わないが住んでいる校区で参加しつながりを作ってもらいたいと感じている。

●委員

参加する立場から言わせていただけるとこちらの都合のいいときにいつでもどこでもふらっと行って参加できるのがいいと思う。

●部会長

委員の意見は介護保険制度の枠組みでないところへの対応という点で地域福祉にとって重要な意見である。豊中市はいろいろ工夫していると思うので今後期待している。

●委員①

試行実施の調査表を見て感じたが、はつらつ教室は、一定期間利用後は地域活動につなげ、自立した生活を送ってもらうというのが目的の一つであり、実際、地域活動につながったという報告を受けていた。一方、調査票では、はつらつ教室からぐんぐん元気塾へのつながりがゼロで、はつらつ教室を卒業した人たちはどの地域活動へとつながったのかと感じた。この調査と、はつらつ教室側の出口調査をうまくマッチングさせて、どの地域活動へとつながったのかが把握できれば、参加にゆとりのある地域活動へとつなげることができるのではと感じた。

●委員②

住民参画・官民連携推進事業の創設に関して、「まちの保健室」と連携することによる医療介護連携もこの事業として考えられる、あるいは、この事業をきっかけに町の保健機能の幅が広がる可能性があると感じた。現在、在宅療養支援診療所や地域の医療機関が地域医療推進に尽力している。地域医療の中で、入院までいかない、要介護でもない、まだ少し元気な高齢の方に関わり、潜在的なニーズをキャッチできる機会となることを期待している。

●部会長

委員お二人の意見に関して、事務局からの応答を求める。

●事務局

▶委員への応答①

健康推進課から、はつらつ教室利用者の約5割が卒業後、地域で自立した生活を送っている。一方、今回の調査票は、調査項目を含めまだ試行実施段階であり、全校区への調査も完了していない未完成のものである。今後全校区で調査を行い、その結果、ぐんぐん元気塾とはつらつ教室との連携が余り見られなければ、課題としてとらえることができる。今後、新設を検討している住民参画・官民連携推進事業と就労的活動支援コーディネーター配置事業を通じて、発掘しきれていない地域資源をキャッチアップできると想定している。

▶委員への応答②

地域医療周辺における地域資源を網羅的に把握や発掘をする仕組みの構築が課題であると事務局でも認識している。この課題についても現在の生活支援体制でなく、住民参画・官民連携推進事業と就労的活動支援コーディネーター配置事業を通じて課題解決できるか検討していく。

▶委員お二人からの意見を踏まえた上での、事務局応答

現状、事務局で把握、認識している課題、今後予定している実地調査の結果見えてくる課題、それら全てを整理した上で令和7年、令和8年の部会の中で議論し、委員の方々から助言をいただき、生活支援体制整備事業の方針に組み込んでいきたいと考えている。特に新たな地域資源に関しては、今後検討する新規事業によって創出ができればと考えている。

●部会長

今回の議題3は生活支援体制整備事業の今後については、まだ事務局が現時点で考える方針を示したという位置づけ。今後方針がより具体化していく中で、改めて部会で議論するべきである。

■議題4 その他

●事務局

令和8年1～2月頃に次回部会開催予定を連絡。

(閉会)